

中一 国語

竹取物語 第一回

講師 .. 羽場 雅希

◆ 今日の授業で学ぶこと

- 竹取物語
- 冒頭部^{ぼうとう}
- 重要語句

◆ 竹取物語

- ・ 作者は不明。
- ・ 我が国最古の仮名書きの（仮名文字を使った）物語。
- ・ 「かぐやひめ」のもとになった話。

◆ 冒頭部^{ぼうとう}

- ① 歴史的仮名遣い^{づか}に気をつけながら音読しよう。

- ② 重要古語を確認して、本文の内容をとらえよう。

今は昔、竹取の翁おきなといふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒つつの中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

「現代語訳」

今となつてはもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野山に分け入つて竹を取つては、いろいろなことに使つていた。名前を、さぬきのみやつこと言った。

その竹の中に、根元の光る竹が一本あった。不思議に思つて、近寄つて見ると、筒の中が光っている。それを見ると、三寸ぐらいの人が、とてもかわいらしい様子で座つていた。

◆ 重要語句

▼よろづ

意味：いろいろ。さまざま。

用例：よろづのことに使ひけり。（いろいろなことに使っていた。）

▼あやしがる

意味：不思議に思う。

用例：あやしがりて、寄りてみるに（不思議に思つて、近寄つて見ると）

▼いと

意味：とても。たいそう。

▼うつくし

意味：かわいらしい。

▼みる

意味：座っている。

用例：いとうつくしうてゐたり。（とてもかわいらしい様子で座っていた。）

※一尺 \parallel 30.3センチ

一寸 \parallel 3.03センチ

次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

「古文」

今は昔、^①竹取の翁たけとり おきなといふもの(a)ありけり。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづ(b)のことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。^②あやしがりて、寄りて見るに、筒つつの中ひかりたり。それを見れば、^③三寸さんすんばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

「現代語訳」

今となつてはもう昔のことだが、竹取りの翁という者がいた。野山に分け入つて竹を取つては、いろいろな物を作るのに使つていた。名前を、さぬきのみやつこといった。

その竹の中に、根元の光る竹が一本あつた。

、近寄つて見ると、筒の

中が光っている。それを見ると、

。

【第一問】

波線部(a)と(b)をそれぞれ現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

(a)

いう

(b)

よろず

【第二問】

① 竹取の翁の名前はなんですか。古文中から書き抜きなさい。

さぬきのみやじい

【第三問】

② あやしがりてを現代語訳しなさい。
い。

不思議に思つて

【第四問】

③ 三寸ばかりなる人、いとうつくし
うてゐたり。を現代語訳しなさい。

三寸ぐらい（9センチぐらい）の
人が、とてもかわいらしい様子で
座っていた。